

支 出 書

会 派 名	市 民 連 合	整理No.	1 - 1
科 目 (該当○印)	① 調査研究費 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	290,050 円		
支出年月日	2018年 6月 15日		
支出内容	7月3日～7月4日 兵庫県たつの市「部落差別解消推進条例について」、埼玉県春日部市「川駅整備事業について」への出張旅費		
支 出 先	別添、領収書のとおり		

領 収 書 (該当○印)	<input type="radio"/> 有 (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	<input type="radio"/> 無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

### 領収書

(会派名) 市民連合 2018年6月15日  
(代表者) 法木昭一

¥ 7 2 9 0 0

但し、7月3日～4日 兵庫  
県たつの市、埼玉県春日部市  
への出張旅費

[内訳] 上記正に領収いたしました

	金額	摘要
交通費	51,900円	たつの市、春日部市
日当	6,200円	2日
宿泊料	14,800円	1泊
計	72,900円	

(会派名) 市民連合

(名前) 川崎卓志



### 領収書

(会派名) 市民連合 2018年6月15日  
(代表者) 法木昭一

¥ 7 2 9 0 0

但し、7月3日～4日 兵庫  
県たつの市、埼玉県春日部市  
への出張旅費

[内訳] 上記正に領収いたしました

	金額	摘要
交通費	51,900円	たつの市、春日部市
日当	6,200円	2日
宿泊料	14,800円	1泊
計	72,900円	

(会派名) 市民連合

(名前) 法木昭一



### 領収書

(会派名) 市民連合 2018年6月15日  
(代表者) 法木昭一

¥ 7 2 9 0 0

但し、7月3日～4日 兵庫  
県たつの市、埼玉県春日部市  
への出張旅費

[内訳] 上記正に領収いたしました

	金額	摘要
交通費	51,900円	たつの市、春日部市
日当	6,200円	2日
宿泊料	14,800円	1泊
計	72,900円	

(会派名) 市民連合

(名前) 池上文夫



### 領収書

(会派名) 市民連合 2018年6月15日  
(代表者) 法木昭一

¥ 7 1 3 5 0

但し、7月3日～4日 兵庫  
県たつの市、埼玉県春日部市  
への出張旅費

[内訳] 上記正に領収いたしました

	金額	摘要
交通費	51,900円	たつの市、春日部市
日当	4,650円	1.6日
宿泊料	14,800円	1泊
計	71,350円	

(会派名) 市民連合

(名前) 西本章



そのほか添付

研究研修・調査報告書

会 派 名	市民連合	報 告 日	2018年7月5日
代 表 者	法 木 昭 一	報 告 者	池 上 文 夫
参 加 者	川 崎 卓 志      法 木 昭 一      池 上 文 夫 西 本 章		
実 施 日	2018年7月3日 ~ 2018年7月4日		
研究研修・調査等の場所	兵庫県 たつの市 埼玉県 春日部市		
目 的	部落差別解消推進条例について（たつの市） 川の駅整備事業について（春日部市）		
<p>&lt;たつの市 部落差別解消推進条例について&gt;</p> <p>7月 3日（火）      10:00 ~ 11:30</p> <p>訪問先：たつの市議会 委員会室</p> <p>歓迎あいさつ      木南 裕樹 たつの市議会総務生活常任委員会委員長</p> <p>応対者 たつの市議会事務局 次長補佐（兼）総務係長 矢本 博文</p> <p style="text-align: center;">市議会主幹 河原 直也</p> <p>説明者 たつの市市民生活部人権推進課長 加藤 真司</p>			

## ○「たつの市部落差別の解消の推進に関する条例」制定の経緯について

資料を参考にしながら、上記条例の制定に至るまでの経緯と現状の課題など詳しい説明を伺いました。

たつの市においては、人権に関わって我が国の先駆けとして制定された1969年（S44）に制定された「同和対策事業特別措置法」以前から、たつの市やその近隣自治体が同和対策に対する積極的な理解もあり、人権・同和対策を住民相互に取り組む土壌が出来ていた。

このことは、資料に示された「たつの市民民主化推進協議会（通称：民推協）組織図」に明らかにされているように、その常任委員会に関わる自治会、婦人会、老人クラブ、教育機関、商工団体、宗教界など26団体の構成をみて、先進的な自治体と言われている福山市にあっては学ぶべき事がたくさんあった。

福山市においては、人権推進協議会や企業民主化協議会、同和教育研究協議会など地域や企業、学校関係など、それぞれが分野別に取り組みがなされているものの、市全体が統一して人権課題について取り組む状況にはなっていないのが現状である。

たつの市の推進協議会の下部組織である地域ブロックには、14支部が原則小学校区単位で編成されて企画委員会、理事会、総会、研修会等を行い、また55事業所からなる企業部会も活動を行っている。

また、人権教育研究協議会、たつの市市民生活部人権推進課、たつの市教育委員会人権教育推進課等の行政機関が軸となって、協働・連携のもと人権・民主化の推進の取り組みが効果を上げていると考えられる。

たつの市は、2006年に「人権尊重都市宣言」を行っており、この宣言は宣言を行う前年の2005年10月1日に、龍野市・新宮町・揖保川町・御津町が合併して、たつの市が誕生し、「5地区人権協議会」を再編成し「11地区協議会」を発足させ、市の議決第1号として人権宣言が2006年12月26日に行っている。

このような積極的な人権行政の取り組みにも関わらず、今なお、差別発言、差別待遇の事案のほか差別的な内容の文書が送付されたり、インターネット上で差別を助長するような内容の書き込みがなされるといった事案が発生している事が報告されていた。

このことは、我が福山市で起きている事案とも類似するものであり、人権侵害事象はより深刻な状況にあると言える。

我が市議会内には、一人の議員による差別的な発言や対応もあり、この議員による発言は福山市がこれまで培ってきた同和対策や人権行政を否定する言動も他の市議会議員からも憂慮する事態を招いており、この議員の動きは福山市が進める人権文化が根づいたまちづくり推進に悪影響を与えていることは間違いない。

議員研修のさらなる充実が求められていると言える。

また、「たつの市」の人権行政を参考に、福山市としては行政機関や、地域団体において、自治会単位での研修会など人権尊重の具体的な取り組みを、これまで以上にこまめに行うことが必要であると感じた。その実践こそが、これからの福山市の課題ではないだろうか。

<春日部市 川の駅整備事業について>

○ 7月4日 (水) 10:00 ~ 11:30

関東平野に位置する春日部市は、市内に流れる川（大落古利根川・中川・倉松川・江戸川）の水辺空間と、その周辺に田園や林などが残っている中、自然環境と都市機能をバランス良く持ち合わせ魅力のあるまちづくりをしている。

埼玉県が主導して2008年から埼玉県内100ヶ所の「川の再生」に取り組んでおり、2012年からはスポットとの再生から線・面の再生とステップアップした「川のまるごと再生プロジェクト」が始動し、春日部市を流れる大落古利根川が選定され、遊歩道の整備が進められている。

今回の視察では、市議会内で取り組みの説明を受けた後、現地での視察をすることが出来た。プロジェクト事業の対象範囲は、市内27<sup>㌔</sup>に及び自然の景観を大切にしながら、地域住民の身近な散策の場として、遊歩道などを整備し、市の散策コースとリンクさせることで、まちににぎわいの空間と親水空間を周遊するネットワークとして整備していた。

福山市が新総合体育館の整備とあわせて、いま取り組みを進めようとしている芦田川の河川敷を活用しての「川の駅整備事業」の参考となる視察となった。

我が市も市内には1級・2級河川も流れており、これらの川の有効活用に向けて、市民の憩いの空間、散策・周遊の場の提供する事業として整備することも今後の検討すべき課題ではないか。

以上

支 出 書

会 派 名	市 民 連 合	整理No. 1 - 2
科 目 (該当○印)	① 調査研究費 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	44,050 円	
支出年月日	2019年 1月 30日	
支出内容	2月6日～2月7日 愛知県名古屋市「名古屋市中央卸売市場視察研修」 への出張旅費	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	○有 (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の 内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 <span style="float: right;">印</span>

# 領 収 書

(会派名) 市民連合

2019年1月30日

書等については、そのまま添付

(代表者) 法 木 昭 一

¥ 4 4 0 5 0

但し、2月6日～7日

愛知県名古屋市への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	24,600円	名古屋
日 当	4,650円	1.5日
宿 泊 料	14,800円	1泊
計	44,050円	

(会派名) 市民連合

(名 前) 池 上 文 夫



研究研修・調査報告書

会 派 名	市 民 連 合	報 告 日	2019年2月8日
代 表 者	法 木 昭 一 (印)	報 告 者	池 上 文 夫 (印)
参 加 者	池 上 文 夫		
実 施 日	2019年2月6日 ~ 2019年2月7日		
研究研修・調査等の場所	名古屋市中央卸売市場		
目 的	名古屋市中央卸売市場視察研修		

市場視察・研修スケジュール

2月7日(木)	7:20	市場到着
	7:20~ 8:30	朝食(市場内店舗)
	8:30~ 9:30	市場施設見学
	9:30~ 10:30	意見交換会
	10:30	市場出発

<意見交換会・整備概要>

名古屋中央卸売市場出席者

豊田 英彰(本場長) 佐藤 勝(管理課長) 仙谷 裕宣(業務課長)  
 太田 元紀(庶務係長) 小谷 武志(業務係長) 竹内 真也(業務課主査)

先ず名古屋市中央卸売市場の豊田本場長から歓迎のあいさつがあり、福山地方卸売市場流通対策協議会会長からは熊谷委員長がお礼のあいさつをおこない、続いて事前に福山地方卸売市場から提出していた質問票に基づいて、管理



業務については佐藤管理課長、業務内容について仙谷業務課長の方から詳しく説明がありました。

名古屋市には中央卸売市場の本場をはじめ、北部市場と南部市場の3つの市場があります。私たちが視察した本場は生鮮食料品の総合卸売市場として1949年に業務を始めています。敷地17万2千平方メートルの広大なもので、中部圏の青果物や水産物の拠点市場として、その中核的な役割を担われている市場であります。

参考までに、北部市場は1955年に開場し、当初は生鮮食料品1985年から水産物部の業務も開始しています。南部市場は1958年に開場し、名古屋圏における食肉の拠点市場としての役割を担っておられます。

お二人の説明は、質問票の沿って詳しいものでした。名古屋市中央卸売市場は圏域、対象となる供給対象人口230万人をはじめ、市場の規模、業務内容、敷地面積など、供給対象人口70万人の福山地方卸売市場とは比べものにならない感じもしましたが、市場の担うべき役割においては規模に関係なく、市民の食生活の安心・安全を確保し、生鮮食料品を適正な価格で小売店やスーパー・消費者にすみやかに提供するといった果たすべきものは共通するものがあります。

施設の概要、業務内容、取扱高など、名古屋市中央卸売市場は全国の卸売市場にあって青果で10位、水産で3位の取扱高、その8割が愛知県内に供給されており、市民の食生活に欠くことのできない市場とのことでした。

意見交換の中で議論された主な内容では、市場運営に欠かせない人材の不足が深刻な状況にあることが報告されていました。また、生鮮食料品の低温管理に必要な冷蔵庫などの施設の必要性を訴えられていました。既存の冷蔵庫などが取扱量に見合っていない現状であり、早急な整備を検討しておられました。低温管理については、福山も同じ課題を抱えており、施設の改善策も要検討とのことでした。

福山にあっては、市場開場から47年が経過し、間もなく50年を迎える中、施設の老朽化対策等を含め、今後の福山地方卸売市場のあり方について、その基本的な方向を打ち出す時期に来ています。

圏域の70万市民の食生活の安心・安全を確保するための施設として、福山地方卸売市場はなくてはならない市場であります。今回の視察を通して、早急に将来の方向を打ち出すことが求められていると感じました。

以上